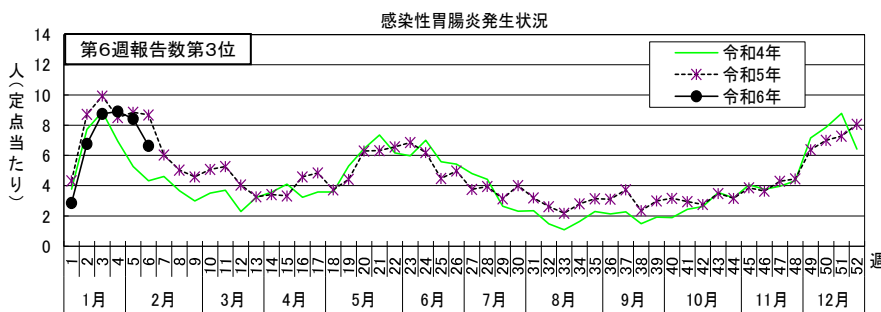
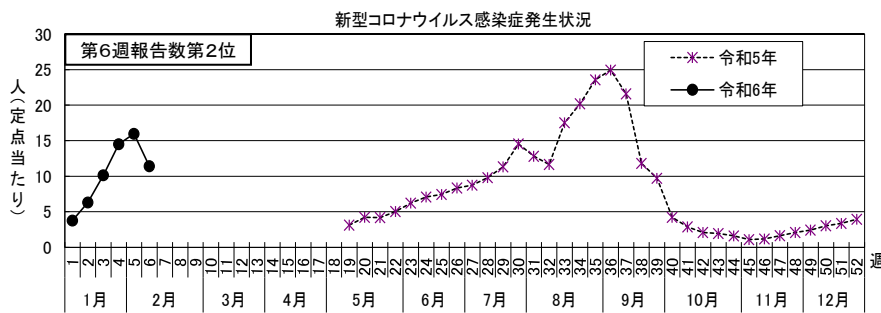
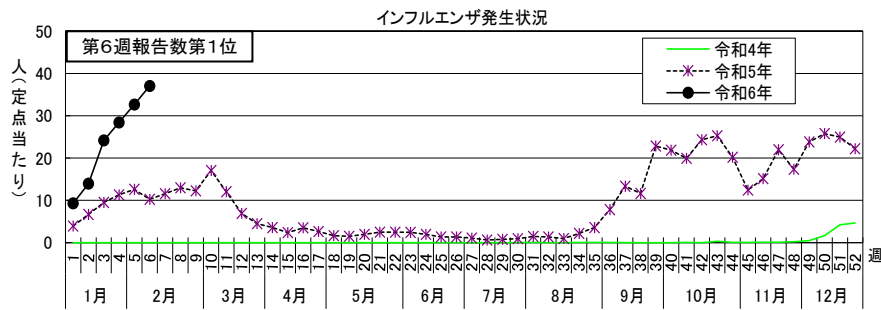


今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和6年2月5日（月）～令和6年2月11日（日）〔令和6年第6週〕の感染症発生状況

第6週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) インフルエンザ 2) 新型コロナウイルス感染症 3) 感染性胃腸炎でした。インフルエンザの定点当たり患者報告数は37.03人と前週（32.67人）から増加し、例年より高いレベルで推移しています。新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は11.40人と前週（15.98人）から減少しました。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は6.64人と前週（8.42人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。



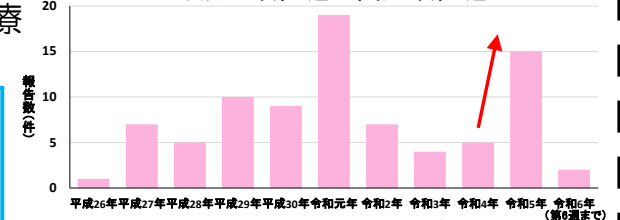
知っていますか？～劇症型溶血性レンサ球菌感染症～

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は、主にA群溶血性レンサ球菌を病原体とする細菌感染症です。突然の四肢の痛みや腫れ、発熱等で発症し、急速に症状が進行した後、ショック状態から死に至ることもあります。

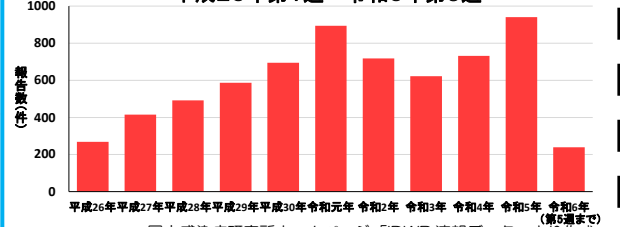
川崎市における患者報告数は、令和5年は15件と4年ぶりに大幅に増加し、令和6年も第6週（2月5日～2月11日）までにすでに2件の報告があります。全国でも、令和5年は941件と過去10年間で最も多く、令和6年は第5週（1月29日～2月4日）までに239件の報告がありました。

四肢の痛みや腫れ等が突然出現し、急速な悪化がみられる場合は、早めに医療機関を受診しましょう。

川崎市における劇症型溶血性レンサ球菌感染症発生状況
～平成26年第1週～令和6年第6週～



全国における劇症型溶血性レンサ球菌感染症発生状況
～平成26年第1週～令和6年第5週～



劇症型溶血性レンサ球菌感染症とは？

- 【病原体】主にA群溶血性レンサ球菌
- 【感染経路】創傷感染、飛沫・飛沫核感染、接触感染等
- 【主な症状】
 - 初期症状 四肢の痛み・腫れ、発熱、血圧低下等
 - 進行とともに出現する重篤な症状 軟部組織壊死（皮下組織細胞の壊死）、急性腎不全、多臓器不全、ショック等

早期発見・早期治療が重要です！